

「えりものは えりもで育てる」

～地域の教育資源を生かした教育活動～

えりも町立北海道えりも高等学校
学 級 数 6
(校長 佐藤 健)

1 本校の概要

日高山脈の先端、襟裳岬を擁し、本校の所在する幌泉郡えりも町は、日高昆布や銀聖ブランドの鮭をはじめとした漁業を基幹産業としている。また、襟裳岬では風速 10m/s の日が年間で 260 日にも及ぶ「風極の地」としても有名である。



本校は昭和24年に浦河高等学校幌泉分校として、町立の定時制課程として開校した。その後、昭和62年には全日制課程となり、本年、開校70周年を迎えた。定時制と全日制合わせ、これまで1828名の卒業生を輩出し、町内はもとより道内や道外で活躍している。

2 中高一貫の取組の充実を目指して

(1) 本校入学生生の状況

本校への入学者は、連携型中高一貫校のえりも中学校からがほとんどであり、えりも中学校卒業生数のうち、約7割の生徒が本校を選び入学している。令和元年5月1日現在の生徒在籍者数と内訳は次のとおりである。

	生徒数	えりも中出身者数 (割合)	えりも中卒業生数に占める本校進学率 (入学当初)
1年生 (令和元年度入学)	31	27 (87.1%)	69.2% (27/ 39)
2年生 (平成30年度入学)	38	38 (100%)	77.6% (38/ 49)
3年生 (平成29年度入学)	28	27 (96.4%)	64.4% (29/ 45)
計	97	92 (94.8%)	71.2% (94/132)

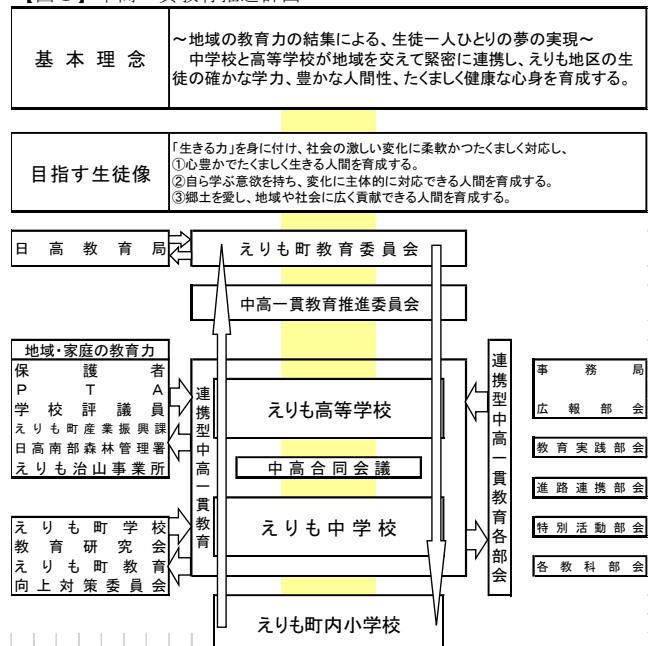
(2) 中高一貫教育推進計画の推進

平成16年度から設置者の同じえりも中学校との間で連携型中高一貫教育を始め、今年度で16年目を迎えた。中高一貫となった取組を推進する上で、共通理解を図ることが重要であることから、えりも地区連携型中高一貫教育推進計画【図1】を策定し、推進理念と組織の明確化、各部会の年間計画の具体化を図りながら取り組んでいる。

教科指導では、基礎学力定着に向けた取組や授業研究の実施、乗り入れ授業、ティームティーチング等を実施している。進路指導では、6年間を見通したキャリア教育、生徒指導では、部活動交流や生徒会交流等の充実を図っている。

今年度は推進目標を「学力向上及びキャリア教育を軸とした中高連携の深化」とし、学力向上、キャリア教育、環境・産業教育、特別活動についてそれぞれ重点目標を設定し、改善を図りながら取組の充実を図っている。

【図1】中高一貫教育推進計画



【図2】 えりも地区連携型中高一貫教育の今年度の推進目標、組織、具体的な取組

令和元年度推進目標			
学力向上およびキャリア教育を軸とした中高連携の深化			
令和元年度重点目標（推進の柱）			
学力向上	キャリア教育	環境・産業教育	特別活動
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を柱とした、より効果的な乗り入れ授業の実践 ・各種資格取得指導の強化 ・他教科における乗り入れ（学習分野や時期に応じた柔軟な乗り入れ）や授業交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習の一層の深化（小中高連携を視野に入れたキャリア教育） ・各種資格取得指導の強化 ・体験入学の改善充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携によるフィールド学習 ・百人浜をはじめとする歴史学習 ・理科・地歴公民科による事前学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事における中高連携の深化 ・中高部活動連携の一層の深化



令和元年度(2019年度)の具体的な取組

教育実践部会	進路連絡部会	特別活動部会	広報部会
<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事予定の中高間での連絡調整 ・中高間の授業交流の実施 ・シラバス、年間指導計画の作成 ・中高教科部会の開催 ・高校教員による中学生面談の実施 ・連携型入学者選抜に関する業務の連絡調整 ・えりも中学校学力テストの実施及び合同会議による分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の子をもつ保護者を対象とするえりも高校説明会の実施 ・キャリア教育及び高校生活ガイダンスの実施 ・外部講師による職業別ガイダンスの実施 ・高校3年生の進路決定者による進路講話「高校生活と進路決定について」 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に関する情報の引き継ぎを目的とした、新入生生徒理解懇談会の実施 ・それぞれの学校祭での合同啓発活動の実施 ・部活動の中高合同練習の実施やオリエンテーションの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携、連絡調整 ・中高授業交流等の研修活動の実施 ・中高一貫だよりの発行、配布 ・体験的な学習活動と各教科との連携 ・体験入学の企画連絡調整

3 キャリア教育の充実を目指して

(1) 「えり高く学びベクトル」(コアルーブリック)の策定

70周年を迎えた今年度、一部の取組において、育成すべき資質・能力が明確になっていないという指摘があり、育成を目指す資質・能力を明確にし、取組の充実を図ることとした。その一つが、様々な教育活動の指針とするための「えり高く学びベクトル」(コアルーブリック)の策定である。授業評価や学校評価等、教育活動全体を前に進めていくための基礎として活用の在り方を研究しているところである。

えり高く学びベクトル			(学びの指針と基準)			
学校目標	生徒の可能性を伸ばし、自立した人間として社会に送り出す		熱達・継続を目指す	理解し行動する	理解している	理解しようとしている
校訓	身につけさせたい力 【学習活動】	社会に求められる資質・能力 【資質・能力の重点】	← 4	← 3	← 2	← 1
敬愛	豊かな人間性 相手の敬い、親しみの心を持つ	よりよい社会や人間関係を自主的に形成する力 (リーダーシップ、チームワーク、感性・優しさ・思いやり)	自分がすべき行動を周囲と協働しながら実行することができる	自分がすべき行動を実行することができる	自他の立場を理解し、自分がすべきことを考えることができる	言われたことはできる
	コミュニケーション能力	多様な考えを理解し集団としての考えを形成する力	集団としての考えを言語化して、まとめて説明できる	話し合いの共通点、相違点、関連性を考えながら聞くことができる	価値観の違いを理解し、個々の話の内容を整理し聞くことができる	話し合いに参加して話を聞くことができる
英知	豊かな学力 優れた知恵を身につける	主体的に学習に取り組む力 (学びに向かう力)	効率よく学び、知識を知恵に変えることができる	自分により適した方法を考え、定着させることができる	学習を客観的に振り返ることができる	謙虚な態度で学ぼうとしている
	プレゼンテーション能力	考えを形成し表現する力 (意味や価値の創造)	考えを言語化・視覚化しわかりやすく相手に伝えることができる	考えをまとめ、相手に伝えることができる	伝えたいことを自分でまとめることができる	伝えたいことを考えようとしている
健康	探究心	問題を発見し解決する力 (正解のない問題の発見・解決)	問題解決のために行動し、次の手段を提案することができる	問題や課題の解決方法を整理し、他人に伝えることができる	問題や課題を発見し、解決する方法を方法について考えることができる	問題や課題を発見することができる
	心身ともに丈夫で元気である 健全な心身	自己の感情や行動をコントロールし志を高める力	自己に自信を持ち、目標に向け前向きに行動することができる	ストレスを解消しようとして行動することができる	ストレスを解消しようとして考えることができる	ストレス(義務)状態であることを理解している

身につけさせたい力
社会に求められる資質・能力

具体化

(2) 育成を目指す資質・能力の具体化

中高6年間を見通したキャリア教育の実現に向け、6年間を大きく3期に分け、中学1・2年生は、「夢を持たせるキャリア教育」、中学3年生と高校1年生は「夢を育てるキャリア教育」、高校2・3年生は「夢を実現させるキャリア教育」というテーマを設定し、「えり高く学びベクトル」を踏まえた取組の具体化を進めている。代表的な取組は次のとおりである。

キャリア教育をとおして育成したい力	
繋がる力 (人間関係形成・社会形成能力)	取り組む力 (課題対応能力)
集団の中で自己の役割や責任をもって、果たすことができる力 他者を認め、協力して物事に取り組む意識・態度	課題の本質を理解し、その課題を解決することができる力 将来の夢や希望の実現を目指し意欲的に取り組む意識・態度
伝える力、聞く力、理解力、表現力、責任感、協調性、コミュニケーションスキル、リーダーシップ など	情報選択・処理・活用力、課題発見力、目標設定力、思考力、判断力、実行力 など
生かす力 (自己理解・自己管理能力)	描く力 (キャリアプランニング能力)
自己の適性等を知り、主体的に行動し、自ら進んで学ぶことができる力 自己の適性・能力の伸長を目指し継続的に努力する意識・態度	自己肯定感をもち、働くことの意義を見付けることができる力 将来の職業を意識して、計画的・主体的に学ぶ意識・態度
意欲、向上心、主体性、行動力、自律心、忍耐力、客観性 など	自己有用感、達成感、社会性、柔軟性、探究心、創造性など

(3) 中高一貫「職業別ガイダンス」(8月)・中学生面談(11月)【取り組む力、生かす力、描く力の育成】

中高連携キャリア教育として、大学・短大・専門学校の講師やハローワーク浦河の支援を受け、本校生徒全員とえりも中学校3年生全員を対象とした講座を実施している。また、11月にはえりも中学校3年生を対象に高校教員による個人面接方式の「中学生面談」を実施し、高校受験や今後の生活について高校教員からアドバイスを行っている。

(4) 各種検定への積極的な挑戦【繋がる力、取り組む力、生かす力、描く力の育成】

中高連携により各種検定試験や講習会を合同で実施している。中高教科会議で得た情報を共有し指導に役立てている。ここ数年、学習方法や指導方法等について効果的に改善が図られ、受験者数及び合格者数は増加傾向にある。特に、英語検定において大きな成果を上げている。またえりも町では、町内中学校に通う小中高生に対して、各種検定や模擬試験の受験料の補助を行っており、生徒が受験しやすい環境が整っている。

(5) 「高校3年生による進路講話」(小中高連携 12月)【繋がる力、取り組む力、描く力の育成】

進路決定までの過程について、自己の体験を踏まえた、本校3年生進路決定者による講話を実施している。一昨年より参加対象を町内の中学生と小学6年生全員に拡大している。講話者は自分の考えを分かりやすく、小・中学生に伝える活動をとおして、表現力の向上を図っている。また、参加者は身近な先輩の講話を聴講することにより、自己課題の解決や進路選択等の参考にしている。

4 地域の教育資源を生かした教育の推進

本校は、これまで地域教育資源を活用し、地域の伝統や産業など生徒が地域を理解する教育の充実に努めてきた。今年度からは、令和4年度からスタートする新学習指導要領を踏まえ、探究的な活動を充実させる観点から、地域探究型学習を導入するなど「社会に開かれた教育課程」の実現を目指している。主な取組は次のとおりである。

(1) 地域探究型学習の展開

生徒の探究心の向上と地域に関心をもつ人材を育成することを目的に、課外学習として1、2年生に「地域探究型学習」を導入した。生徒は提示した14のテーマから1つを選び、講義や実習を通して課題について考えをまとめている。えりも町の企画課と行っている「防災」をテーマにした学習では、9月末に内閣府主催で行われた「えりも町新浜地区防災計画策定支援ワークショップ」に参加して、これまで学習した内容を発表するなど、地域について考える機会の充実に努めている。



(2) 環境教育「百人浜に学ぶ」(中学生6月・高校生9月)

平成18年度から行われている中高一貫の環境教育である。1年生の「総合的な探究の時間」で、環境省の「百人浜国有林育樹事業」(昭和20年代から続くえりも岬一帯の森林再生事業)に参加する形で実施している。



ア 中学1年生は「カミネッコン」を用いて植樹を行う。事前に社会と理科で「えりも緑化の歴史」や「環境問題と森林の大切さ」を学ぶ。

イ 高校生は、中学生の時に植樹した木(写真と個人名が記載したプレートが付けてある)の成長を確かめた後、国有林内で樹齢20~25年の木の間伐を行う。

アとイの取組には、北海道森林管理局日高南部森林管理署えりも治山事業所の技術官、ひだか南森林組合の技術者、えりも町役場職員の支援を得ている。

(3) 伝統芸能「えりも駒踊り」の継承

毎年1年生の「総合的な探究の時間」で、地域伝統芸能「えりも駒踊り」の継承に取り組んでいる。保存会「勇駒会」からの外部指導者により週1回授業を行い、10月の「えりも海と山の幸フェスティバル」で町民に披露している。中学生の本校進学者割合を考えると、各世代の約7割がこの伝統芸能に触れることとなる。この取組は、実施の趣旨から「北海道みんなの日」条例を踏まえた教育活動としても位置付け実施している。



(4) 風極プロジェクト同好会「高校生かふえ」

本校の風極プロジェクト同好会は、町の「うに祭り」や「海と山の幸フェスティバル」などで、地域食材を用いた商品販売や地域活性化のために活動している。また、期間限定の「高校生かふえ」を「えりも岬風の館」で出店するなど日頃の学習成果を披露する機会を設けている。



5 取組の成果と課題

取組の成果としては、一点目に、中高一貫した検定や資格取得に向けた指導、学習指導を行うことにより生徒の学習意欲や主体性が向上し、進路実現で好成果を収めていることがあげられる。二点目として、体系的な体験学習により意志決定能力や情報活用能力、コミュニケーション能力等が定着していることがあげられる。三点目としては、地域の教育資源の活用は、地域理解の深化、地域社会を支える人材づくりにつながり、四点目として、中高合同会議の実施により中学校と高等学校の教職員間の情報共有が図られ、効果的・組織的な取組が実現していることがあげられる。

課題としては、一点目に、今年度から実施の地域探究型学習において、教科横断的視点から、探究の過程を見直し、深い学びを実現することがあげられる。二点目に、今年度策定し、活用を始めている「えり高く学びベクトル」の活用促進とその内容の見直しが必要とされる。

こうした課題の解消に向けて、今後は、中高一貫の取組内容の充実を目指し、中高の連携をさらに深めるとともに、地域の教育資源のさらなる効果的な活用方法を地域と一体となって検討し、「えりもの子はえりもで育てる」を合い言葉に、中高一貫のキャリア発達を促す教育活動の充実に努めてまいり。